

みんなで集い考えよう

“私たちの美術館”にするために、

市民の声が自治体を動かした
5年前の宮城県美術館の現地存続運動。県美はいよいよ来年夏にリニューアルオープンしますが、“私たちの美術館”とよべるものにするためには何が必要なのでしょうか。

昨年末から今年初めにかけて河北新報に連載された「人口減時代の美術館 東北の現場から」は、地域の高齢化や財源不足に悩む美術館をレポートしつつ、市民と手を結ぶことで広がる可能性を描くものでした。宮城県美ネットの「井戸端会議」では、記事の連載を担当された文化部の会田正宣さんを講師にお迎えし、東北における美術館の実情をお教えいただきます。

また、後半は八戸市美術館のディレクターをつとめた吉川由美さんにも加わっていただき、オープン後の美術館や市民の役割についてお話を進めていきます。今後の期待も含め、みなさんが意見交換をしませんか。

パネラー

会田正宣 (あいだ・まさのぶ)

1972年生まれ、横浜市出身。慶應義塾大学総合政策学部卒。
1994年河北新報社入社。報道部、福島総局、岩沼支局、白河支局、角田支局を歴任。2019年度から文化部所属。
著書に『阿武隈川物語』(河北新報出版センター)

吉川由美 (よしかわ・ゆみ)

文化芸術を核に、コミュニティ、地域資源、観光、教育などをつなぎ、地域に活力と新たな価値を創り出す活動を進めている。
青森県八戸市の八戸ポータルミュージアム はっち、八戸市美術館や仙台市、鳴子温泉郷、南三陸町などで、地域資源をテーマに数々のアートプロジェクトをディレクションした。

司会

柴田治 (しばた・おさむ)

水彩画家。建築設計事務所、地域計画コンサルタント事務所勤務ののち「アトリエ光彩舎」を設立。自身のアトリエのほか、市内のさまざまな教室で指導にあたっている。宮城県芸術協会会員、日本水彩画会会員、白日会会員。個展の開催多数。ファンも多い。

宮城県美ネット

2020年、宮城県美術館の現地存続のために結成した市民グループ。結成後わずか4ヶ月間に2000名の会員を擁し、県内での幅広い活動で現地存続を実現した。2021年には活動の詳細な記録集『みんなでまもった美術館』を出版。目標達成後も活動を続け、「みんなで祝おう！宮城県美術館40歳のハッピーバースディ展」をはじめ、県美の今後のあり方を市民が集い考える「井戸端会議」、その魅力や周辺環境を専門家とともに歩いて考える「WALK & ACADEMY」などを開催してきた。

宮城県美術館の百年存続を願う市民ネットワーク（宮城県美ネット）

連絡先 | 〒982-0801 仙台市太白区八木山本町1-38-3 / メールアドレス | miyagikenbi.net@gmail.com

WEBサイト | <https://www.save-mmoa.org/>

宮城県美ネットは会員を募集しています。

会費は必要ありません。お名前とメールアドレスを事務局までお知らせください。

主催事業などをお知らせします。



SAVE THE MIYAGI
MUSEUM OF ART

2025年 11月 29日 (土)

14:30 - 16:30

会場 | 東京エレクトロンホール宮城

(宮城県民会館) 601会議室

参加費 | 無料 (お申し込み不要)

定員 | 100名

PART-1 講演

「人口減時代の美術館 東北の現場から」
取材ノートより

講師 会田正宣さん 河北新報社文化部記者

PART-2 トークセッション

「宮城県美術館に期待すること」

パネラー 会田正宣さん
吉川由美さん
文化事業ディレクター・演出家

司会 柴田治
宮城県美ネット事務局・画家

主催 | 宮城県美術館の百年存続を願う市民ネットワーク
(宮城県美ネット)

お問い合わせ | miyagikenbi.net@gmail.com

宮城県美ネット 井戸端会議 vol.3

ひびきあう アートプレイスをめざして

—宮城県美術館のリニューアルオープンを前に—